

共六本
五十一

庫文閣内			
一七二函	二九一五號	六册	和書類

内務省圖書
第一〇三四六號
和書部地理類
第一卷七三函
共六册

	二九一五	和書門
	一〇二	
六四四五		
册架函號類		

内閣文庫	
番號	和 29125
册數	6 (1)
函號	122 4

122-4



教部省
文庫

文庫

難波かこみしうらむさゆの海を
うき舟のふらむとせむしと船は乃

繩のうら枕夢れらふ子橋のあやうき

くさくさくさくさくさくさくさくさくさく

よら波よらよらや秘を踏く松れ戸小

行ら月となとあききこあそおき

のうりりりりりりりりりりりりりりり

咲やこの花と葉し葉も若の枯

兼に秋成しむし田叢の清れ雪乃
かりぬ小神うらむくふ也の善れ
煤幕まきくはびめく〜神社若
祭れ佛圖れ浄法をたにふらふを
志のいつるも又鴨去明り四季
物候は準へかけまきも辱もたぬや
けしと六年中行事とらまされたり
まきくはびめくはびめくは川遠き

りられ雪野の清れありさる年中く
眼の余亦されは徳書れ徳力とかりて
今ら〜しる〜しる末のかりみ
まきくはびめくはびめくは川遠き
河まきくはびめくはびめくは川遠き
か〜とせら〜しる〜しる末のかりみ
〜とせら〜しる〜しる末のかりみ
模障のまきくはびめくはびめくは川遠き

ろろ羅内艦と名つけぬ是ろ
奈ろろたろろは控へまろろ孫ハ
梓小海女又文字乃供ハ奇願氏小
徳りほろろ人ろろ一は心也
ろろろ

延寶八庚申赤子孟春上旬

一色軒 道治轉

羅波艦第一目錄

氷様 并 若水

正月と云事

門松 并 炭藁竹藁束控はる葉傍繩のろ

位右明神御供 并 内所所供 附位右橋本

智徳太子御精進供

餅饅居事 并 胡鬼板被魔らるる縁居事

速打玉 并 胡鬼板被魔らるる縁居事

廣蘇白教

道長坊初志居

任者白子神事 附七草

大融寺富之祈 年卯杖

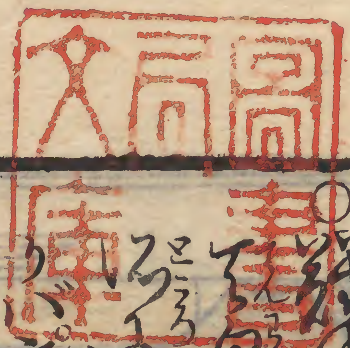
神宮寺業師禱 附富土事

任者清心 附美殿

東去場長

任吉粥 妙法

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



那波瀨第一

氷様

正月朔日

那波瀨乃帝の清時より... 室千二年五月... 出でて山より... 野中を... 見たり... 氷... 雪... 時彼山の... 侍人を... 氷... 雪... 時彼山の... 侍人を... 氷... 雪... 時彼山の... 侍人を...

那波瀨

目録



新編
卷一

水と。仁徳帝へはむらひけり。其威ありし
とや。是れ水なるを。めを。後平のまこと
と。破て。おく。よ。水室を。まき。と。也。今。新
家より。りて。水柄。と。也。や。別水の。法。に。と
ち。法。秘法。お。こ。かり。と。也。四。冬。水。の。あり
と。為。と。めて。豊。年。を。奏。せ。れ。り。と。也。柄
こ。り。の。寸法。を。傳。へ。ぬ。と。也。一。也。と。凍。り。水。を
水。化。も。と。り。を。水。化。の。り。の。り。を。な。り。と。也。
延。壽。水。も。水。池。風。神。の。系。と。裁。と。も。也。水。と
や。と。也。

幸中
今日
水化乃
入

漸若水

○去年
内
て
乃
り
め

正月と云事

○先
子
お
ゆ

水と 卷一



三つをぬきし終りしころなり

任者白鳥の御事 同七日

○今日の御殿、湯掛道徳を御へし御前

をりし。何事の御事として御事の系初あり。此時

御至一級社五社係任人以下よりくるかぞ。出仕し

りし。柘白鳥の御事よりあつた。ちやよなりし。今

月おこなりしころ。此の御事をこぞれふもや。是ハ長

き。おこし。あつた。あつた。湯の熱さあり。あつた。

ま。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

乃。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

震。あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。

あつた。あつた。あつた。あつた。あつた。



任者白鳥の御事

十三

玉神を浴せしむるにまづるにせれども法障に今はせり
 伊豆は入事候に多岐の平式をぬくあり
 とりども本より下はぬのりせりまゝとあり候に
 あつたまはつたまもさし候事よとあり候に
 内帯のまゝとあり候に
 まへにあり候に又用門をとり候に
 今のらづくのまゝ物とあり候に
 今

ひりりあつたまや伊豆の門
 時七草の事
 七草の事とあり候に



二月七日の事

七曜とらふ神ありてまよふ七曜とて一地の七あると
 ちんろ。是れをとりて服せられ。赤禪解のまをなほし。
 岸を延つたり。大宰府の時のまはつるや。七ある
 りあり

せりちんろかめりまひとては乃を在

さしちんろかめりまひとては乃を在

大徳寺富く彩 并 卯杖 同七日

○正月一日より七日まで。佛の法舎并成りて。牛
 馬を殺し。屠畜の類あり。是れをとりて。平
 大宰府。凡そ時を殺し。如能万民を脱の法は
 街とて。格致の法の分れ。そを殺し。同なり。
 書む。七書のの旨。七曜は減。七曜は生。の

大徳寺富く彩



十日五ノ下



性徳

同十一日

○ある者として、商人の家へ、使を遣らして、
 一、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 二、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 三、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 四、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 五、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 六、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 七、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 八、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 九、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、
 十、ついでに、白や、赤、きんぎょ、も、

行名

同十二日

○今日、五ノ下、一、ついでに、
 二、ついでに、三、ついでに、
 四、ついでに、五、ついでに、
 六、ついでに、七、ついでに、
 八、ついでに、九、ついでに、
 十、ついでに、十一、ついでに、
 十二、ついでに、十三、ついでに、
 十四、ついでに、十五、ついでに、
 十六、ついでに、十七、ついでに、
 十八、ついでに、十九、ついでに、
 二十、ついでに、二十一、ついでに、
 二十二、ついでに、二十三、ついでに、
 二十四、ついでに、二十五、ついでに、

御書

三十一

る中子海の徳をばくねし。こととれうの
こころをばくねし。ちかきまをばくねし。
まや。あまをばくねし。ちかきまの徳をばくねし。
徳をばくねし。仁義礼智信の徳をばくねし。
ちかきまをばくねし。徳をばくねし。ちかきまをばくねし。
まをばくねし。ちかきまをばくねし。

任者 粥の御信 同十五日

○一乃粥殿へ今日粥の法信を致せられ今日
致し奉るも。粥粥と致せし。ちかきまをばくねし。
びく。ちかきまをばくねし。ちかきまをばくねし。
ま。ちかきまをばくねし。ちかきまをばくねし。
地や。ちかきまをばくねし。ちかきまをばくねし。

粥を煮て。ちかきまをばくねし。ちかきまをばくねし。
粥粥の徳をばくねし。ちかきまをばくねし。
あ。ちかきまをばくねし。



三十一



Handwritten text in a cursive script (likely Japanese) enclosed in a rectangular border. A red square seal is visible within the text area.

三十一

卷

三十一

